

IBM ThinkPad 770

使ってみよう ThinkPad(Windows 95)

IBM

IBM ThinkPad 770

使ってみよう ThinkPad(Windows 95)

ご注意

本書をお読みになり、本書がサポートする製品をご使用になる前に、必ず39ページの付録A、『特記事項』をお読みください。

電波障害自主規制 届出装置の記述

この装置は、第二種情報装置（住宅地域またはその隣接した地域において使用されるべき情報装置）で住宅地域での電波障害防止を目的とした情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）基準に適合しております。

しかし、本装置をラジオ、テレビジョン受信機に近接してご使用になると、受信障害の原因となることがあります。

本書に従って正しい取り扱いをしてください。

第 1 版 (1997 年 9 月)



原 典	P/N 06J0765 IBM ThinkPad 770 Up and Running
発 行	日本アイ・ピー・エム株式会社
担 当	ナショナル・ランゲージ・サポート

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書には、本製品を安全に正しくご使用いただくための安全表示が記述されています。この取扱説明書を保管して、必要に応じて参照してください。

絵表示について

この取扱説明書および製品への安全表示については、製品を正しくご使用いただいて、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、次の絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

 危険	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性がある危険が存在する内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

危険/注意ラベルの表示について

この製品の外部または内部に黄色地に黒文字で表示されているラベルがある場合は、安全上に関しての、危険または注意ラベルです。必ず表示の指示に従ってください。

この取扱説明書に記述されている内容以外に、危険または注意ラベルによる表示がある場合は（たとえば製品上）、必ずそのラベルの表示による指示に従ってください。

危険

本製品を改造しないでください。火災、感電のおそれがあります。

表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。タコ足配線をしないでください。火災、感電のおそれがあります。

本製品は、付属の電源コード以外は使用しないでください。付属の電源コードを他の機器には使用しないでください。火災、感電のおそれがあります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電のおそれがあります。

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また重い物を載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたりすると電源コードを破損し、火災、感電のおそれがあります。

コンピューターの構成に電話ケーブル接続、通信ケーブル接続、テレビのアンテナ線接続が含まれている場合、付近に雷が発生しているときは、それらのケーブルに触れないようにしてください。

万一、発熱していたり、煙が出ている、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電のおそれがあります。すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから必ず抜き、バッテリー・パックを取り外して、販売店または保守サービス会社にご連絡ください。

万一、異物（金属片、水、液体）が機器の内部に入った場合は、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから必ず抜き、バッテリー・パックを取り外して、販売店または保守サービス会社にご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電のおそれがあります。

電池について

本製品には、次の 3 種類の電池が使用されています。

- バッテリー・パック（本体の主電源用で着脱可能）
- リチウム電池
- ニッケル水素電池

バッテリー・パック以外の電池は専門の担当者によってのみ交換されます。電池の交換については、お買い求めの販売店または IBM サービス・センターまでお問い合わせください。

電池の取扱いを誤ると、発熱、発火、破裂のおそれがあります。

電池は幼児の手の届かない所に置いてください。万一、幼児が電池を飲み込んだ場合は、直ちに医師と相談してください。

次の行為は絶対にしないでください。

- 水にぬらすこと
- 100 以上の過熱や焼却
- 分解や、本体や専用の機器以外による充電

電池は、地方自治体の条例または規則に従って破棄してください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に捨てないでください。

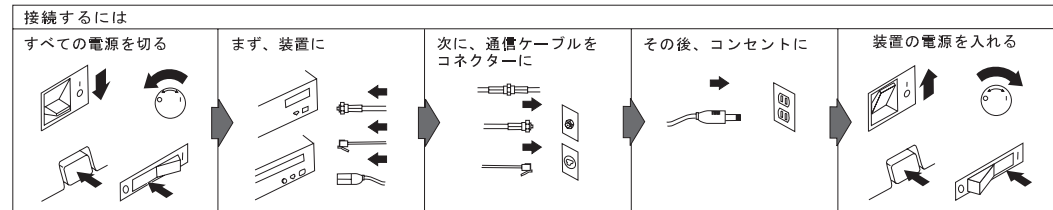
充電式バッテリー・パックを分解、焼却、ショートさせないでください。

外付けモニターのカバーは開けないでください。内部には高電圧部分があり危険です。

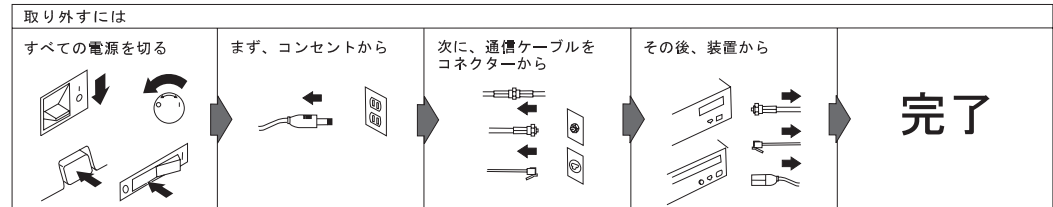
⚠危険

ケーブル類の取付け、取外し順序

電源コード、電話ケーブル、および通信ケーブルには危険な電流が流れています。感電を防止するために、コンピューターまたは接続装置を設置または移動するとき、またはカバーを開ける際には、下記の手順でケーブルの接続および取外しを行ってください。



電話ケーブル、通信ケーブルまたはテレビのアンテナ線を接続する製品は、雷の発生時にはケーブルの接続をしないでください。



電話ケーブル、通信ケーブルまたはテレビのアンテナ線を接続する製品は、雷の発生時にはケーブルの接続および取外しをしないでください。

⚠注意

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。(必ずプラグを持って抜いてください。)

湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災、感電の原因となることがあります。

連休などで長期間使わないときは、バッテリー・パックを本体から抜いておいてください。

液晶ディスプレイ (LCD) 内の蛍光灯の中には水銀が含まれています。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に捨てないでください。液晶ディスプレイの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

液晶ディスプレイはガラスで作られており、コンピューターを乱暴に扱ったり落としたりすると壊れることがあります。液晶ディスプレイが壊れて内部の液体が眼に入ったり、手についたときは、すぐに水で 5 分以上洗ってください。何らかの症状が残る場合は、医師の診断を受けてください。

レーザーに関する承諾事項

IBM ThinkPad 770 に装着されている CD-ROM ドライブおよびオプションの DVD ドライブはレーザーを使用しています。次に示すドライブの分類ラベルが、ドライブの表面に貼付されています。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1
LUOKAN 1 LASERLAITE
KLASS 1 LASER APPARAT
APPAREIL À LASER DE CLASSE 1
EN 60825

これらのドライブは EN 60825 の基準に適合しています。

⚠注意

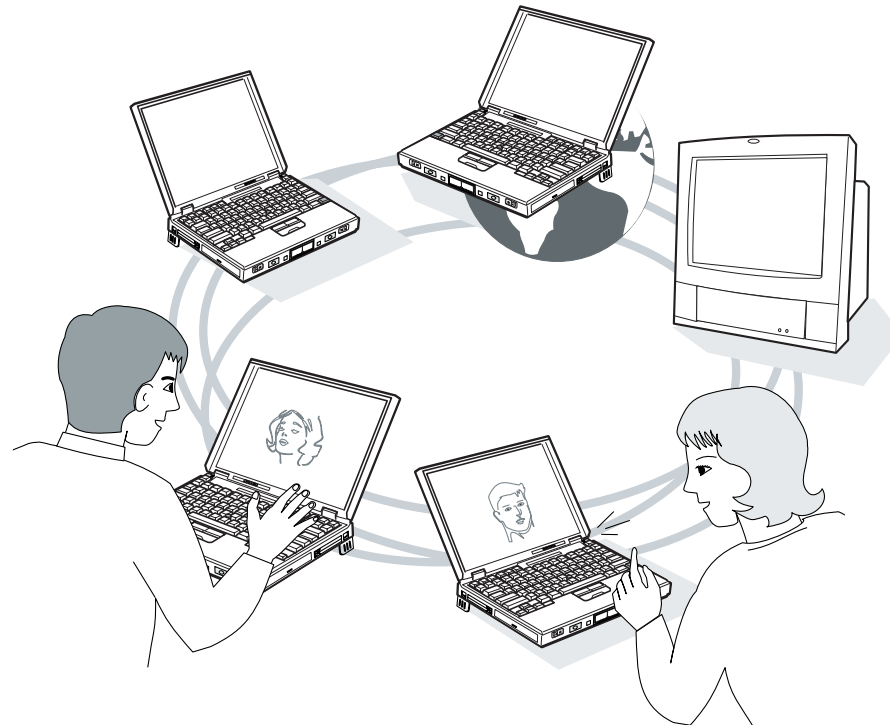
CD-ROM ドライブおよび DVD ドライブを分解しないでください。ドライブ内部にはお客様による調節の必要な部品はありません。

本書で指定された内容以外の、お客様による整備、調整、または手順を行った場合、レーザーの放射、露出の危険があります。

Class I (1) のレーザー製品は危険物とみなされていません。これらのドライブには、770-800 ナノメートルの波長で作動する CLASS I の 0.7mW の AlGaAs (Aluminum Gallium-Arsenide) と、640-660 ナノメートルの波長で作動する CLASS I の 0.7mW の InGaAlP (Indium Gallium Aluminum Phosphide) が入っています。このレーザー・システムおよびドライブの設計は、通常の操作、保守を維持する限り、Class I (1) レベルを越えるレーザー放射は起こらないことを保証しています。

使ってみようThinkPad

まさにインターネット時代と言える今日、多くのパソコン・ユーザーが自分のパソコンをインターネットに接続して、さまざまな情報を得たり商品やサービスを購入したりしています。ノートブック・パソコンももちろん例外ではありません。ノートブック・パソコンを携帯して、それがたとえ動く電車や飛行機の中からであっても、さまざまな仕事や操作を思うがままに行える時代が来ています。ここで、IBM ThinkPad ノートブック・パソコンを使用して、インターネットやビデオ・キャプチャーなどを体験してみましょう。



使ってみよう**ThinkPad**

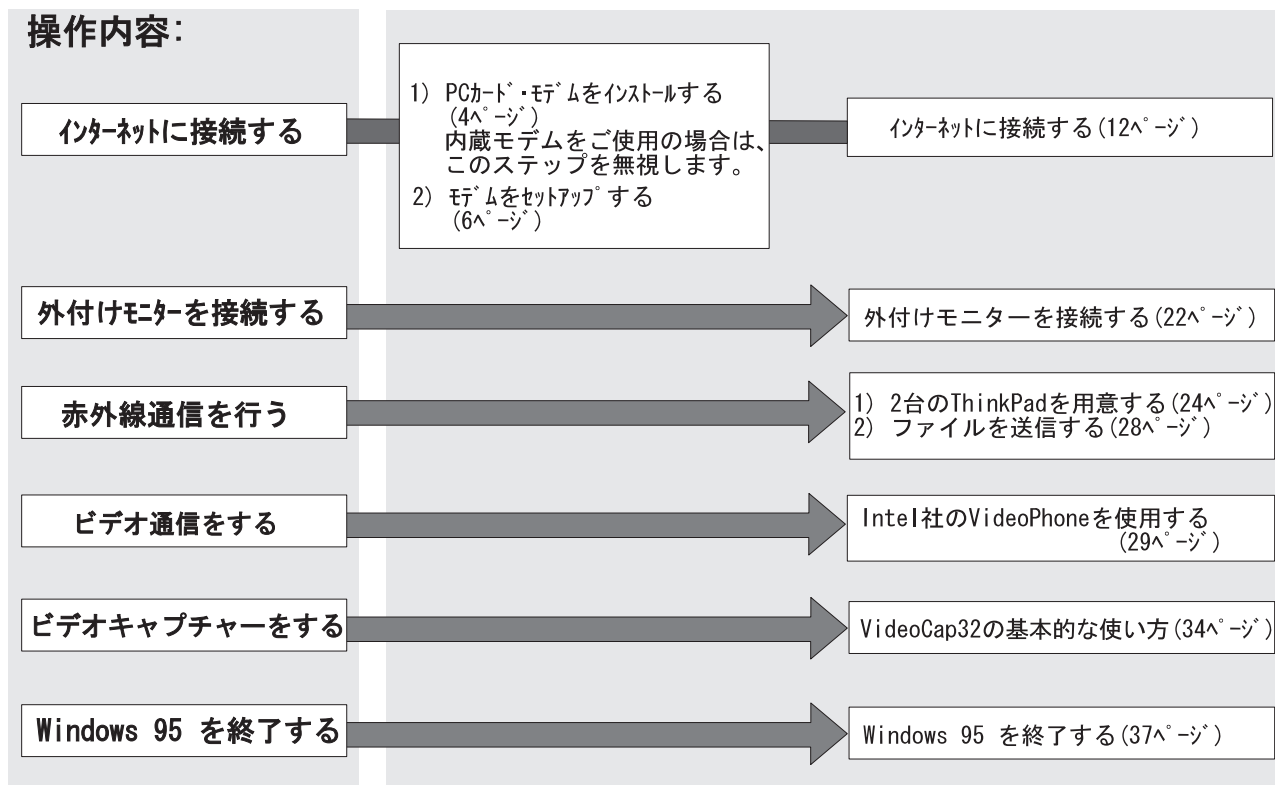
注: ThinkPad モデル 770 には、次の2種類があります。

Windows 95 が初期導入済で、内蔵モデムとDVD 拡張ビデオ・アダプターが装着されているもの。このマニュアルでは、このタイプについて使用法を説明しています。

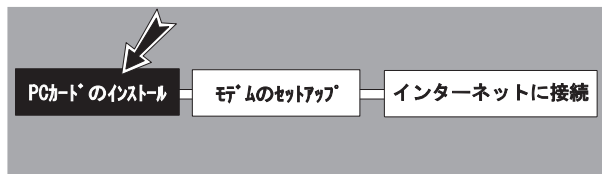
Windows 95 が初期導入済で、内蔵モデムもDVD 拡張ビデオ・アダプターも装着されていないもの。このマニュアルでは、このタイプについて使用法を説明しています。

内容

以下の図では、各タスクを行うためのそれぞれの作業が本書中の何ページに解説してあるかを示しています。

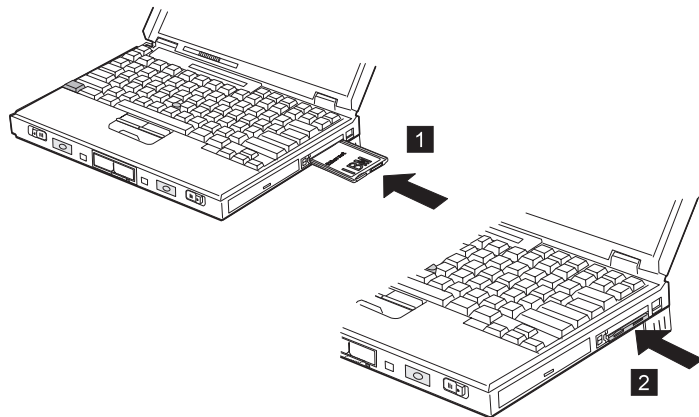


PCカード・モデムをインストールする



PCカード・ファックス・モデム(以降、PCカード・モデムと表記)を使用して、インターネットに接続することができます。ここでは、まずPCカード・モデムのセットアップ方法について説明します。

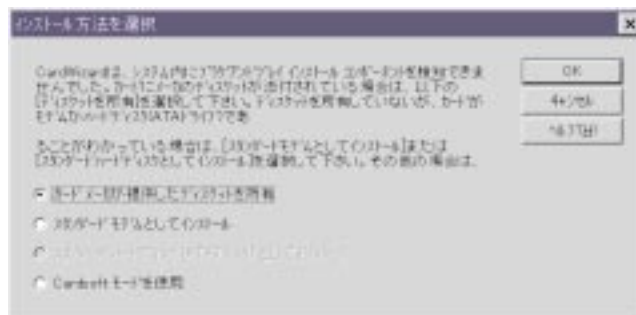
- 1 ThinkPad の電源をオンにします。Windows 95 のデスクトップが画面に表示されます。
- 2 PCカード・モデムをPCカード・スロット(1 あるいは 2)に差し込みます。



次のウィンドウが表示されます。



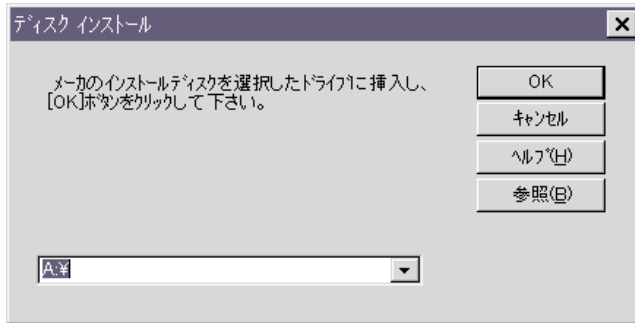
お使いの ThinkPad に PCカード・モデム が初めて差し込まれた場合、またはCardWizard ソフトウェアに PCカード・モデム のデバイス・ドライバがない場合は、次のウィンドウが表示されます。



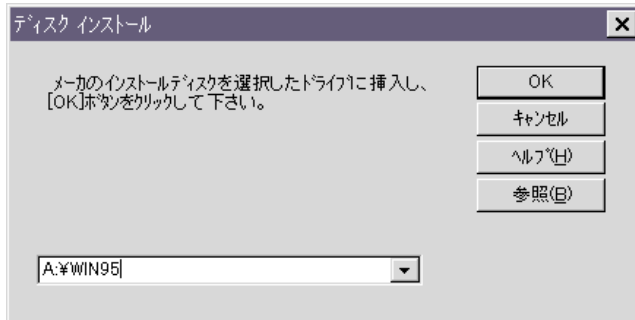
このウィンドウが表示されなかった場合(すでに以前このモデムが差し込まれたことがあった場合など)は、6ページの『モデムをセットアップする』へ進んでください。

3 「OK」をクリックします。

次のウィンドウが表示されます。



4 PCカード・モデム用のデバイス・ドライバー・ディスク (またはオプション・ディスク) を、ThinkPad のディスク・ドライブに差し込みます。a:¥ に続いて、デバイス・ドライバーの入っているディレクトリー (例えば win95) とタイプします。



5 「OK」をクリックすると、ディスク・ドライブがデバイス・ドライバーを読みます。しばらくして、次のウィンドウが表示されます。



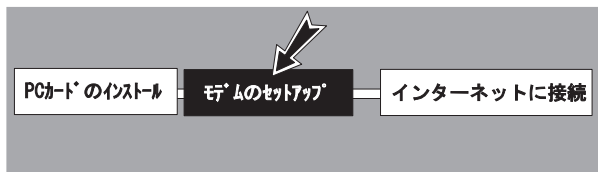
これでモデムの取付けは完了しました。

PCカード・モデムのインストールは完了です。次のページへ進んで、モデムのセットアップを行います。

Windows 95 を終了するには

ここで作業を終了したい場合は、37ページの『Windows 95 を終了する』を参照して必ずシステムをシャットダウンしてください。

モデムをセットアップする



モデムのセットアップは、次の2ステップで行います。

1. 電話線の接続
2. モデムのプロパティの設定

電話線を接続する

この項では、電話線を ThinkPad に接続する方法について説明しています。内蔵モデムがない場合は、電話線を接続する前に、4ページの『PCカード・モデムをインストールする』の手順にしたがってモデムのインストールが完了している必要があります。

内蔵モデムとは、IBM アドバンスド・コミュニケーションズ・プロセッサによってサポートされる ThinkPad Modem (以後、*modem*と記述)機能のことです。

内蔵モデム付きの ThinkPad 770 は、側面にモデム/ファックスポートを備えており、ここに電話線を接続します。

重要

海外で ThinkPad Modem を使用する場合は、「ThinkPad Modem」メニューの「国選択」を実行しなければなりません。

次の手順に従ってください。

1. スタートをクリックする。
2. プログラム **ThinkPad Modem** 「国選択」を実行する。

注意:

お使いの ThinkPad は一般の公衆電話回線(アナログ回線)にのみ接続可能です。デジタル回線には接続しないでください。アナログ回線以外の回線に接続すると、モデムに損傷を与えることがあります。

もし画面に次のようなメッセージが表示されたら、電話線の使用を止めて、ThinkPad から電話線を抜いてください。

モデム警告

モデムが電話回線上にハードウェアを損傷する恐れのある電流/電圧レベルを検出しました。システムを保護するため、Off-Hookは禁止されました。デジタル、あるいはその他の標準外の電話システムに接続していないことを確認してください。ネットワーク電話選択アプリケーションでの国選択が正しいことも確認してください。

誤った使用方法でモデムが損傷した場合には、保証期間内であっても修理は有料となります。

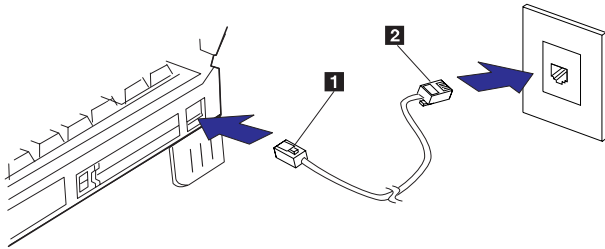


危険:

感電などの危険防止のため、雷雨時には絶対に電話線を電話プラグに接続したり、取り外したりしないでください。

内蔵モデムを装着した **ThinkPad** の場合 :

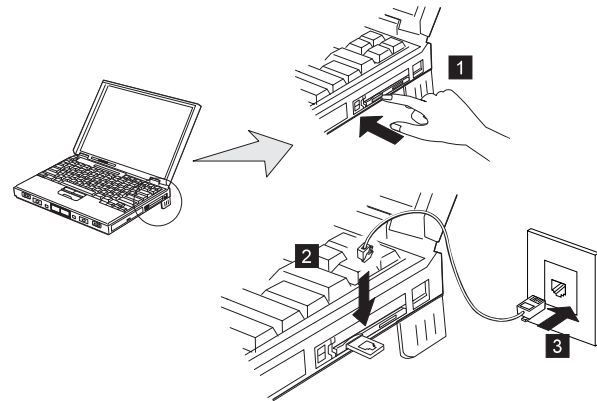
まず電話線の一方の端 1 を ThinkPad右側面のモデム/ファックス・ポートに差し込みます。次にもう一方の端 2 を壁などの電話プラグに差し込みます。



内蔵モデムを装着しない **ThinkPad** の場合 :

次の手順に従ってください。(モデムによっては、この説明と異なることがあります)

1. PCカード・モデムのプッシュ・ボタン 1 を押します。取付け口が飛び出します。
2. 電話線の一方の端をPCカード・モデム 2 の取付け口に差し込みます。
3. 次にもう一方の端 3 を壁などの電話プラグに差し込みます。



注: ひとつの電話プラグに、ThinkPad と電話の両方を接続したい場合は、ThinkPad 付属の分岐用電話線を使用してください。

モデムのプロパティを設定する

モデムのプロパティを設定するには、次の手順に従ってください。

- 1 ThinkPad の電源をオンにします。Windows 95 のデスクトップが画面に表示されます。

“Windows 95 へようこそ”ウィンドウが表示される場合は、次の手順に従ってこのウィンドウを閉じてください。

- a) 「**Windows** を次に起動するときも、このダイアログを表示する」に付いているチェック・マークを、クリックして取り除きます。
- b) 「閉じる」をクリックします。

- 2 「マイ コンピュータ」をダブル・クリックします。

- 3 「コントロール パネル」をダブル・クリックします。

- 4 「モデム」をダブル・クリックします。次のウィンドウが表示されます。



使用するモデムのみが画面に表示されていることを確認します。

内蔵モデム付きの ThinkPad 770 では、次の内容がハイライト表示されます。

ThinkPad Data Fax Modem

内蔵モデム付きでない ThinkPad 770 では、次の内容がハイライト表示されます。

PCMCIA Modem . . .

- 5 プロパティ (「ダイヤルのプロパティ」ではありません) をクリックします。

- 6 「接続」タブをクリックします。“呼び出しオプション”と“接続オプション”ウィンドウが表示されます。
- 7 以下の画面が表示されます。設定値は変更できますが、ここでは省略時の値をそのまま使用しますので、何もする必要はありません。。



- 8 「詳細」をクリックします。“接続の詳細設定”ウィンドウが表示されます。

モデムをセットアップする

9 次のように設定します。

- 「エラー制御を使う」のチェック・ボックスに が ついている場合は、クリックして消します。
- 「フロー制御を使う」のチェック・ボックスに が ついていなければ、クリックして をつけます。その後、「ハードウェア(RTS/CTS)」をクリックします。次のように項目が選択されていることを確認します。



- 「OK」をクリックしてウィンドウを終了します。
- 「OK」をクリックして“モデムのプロパティ”ウィンドウに戻ります。

10 「ダイアルのプロパティ」をクリックすると、次のウィンドウが表示されます。



11 ユーザー情報を入力します。欄から欄への移動には Tab キーを使用します。

市外局番
あなたの所在地の市外局番 (03など) をタイプします。

国番号
▼をクリックして日本(81) を選択します。

外線発信番号
外線用の発信コード (市内用と長距離用) を入力します。

ダイヤル方法

トーンまたはパルスをクリックします。現在はトーン発信が一般的です。電話番号を押したときいろいろな高さの音（「ピッ」「ポッ」など）が受話器から聞こえる場合は、トーン発信です。

12 「OK」をクリックして“モデムのプロパティ”ウィンドウに戻ります。

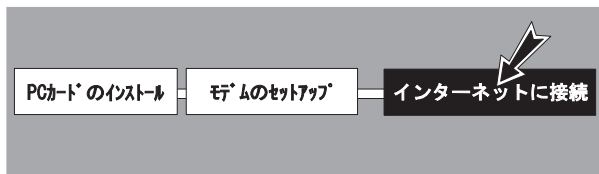
13 「閉じる」をクリックします。

14 ウィンドウの右上のXをクリックして、“コントロールパネル”と“マイ コンピュータ”ウィンドウを閉じます。

ネットワークに接続するための準備が完了しました。ネットワークに接続してファックス送信することができます。

インターネットに接続するには → 12ページの『インターネットに接続する』

インターネットに接続する



この項の作業を開始する前に、モデムのセットアップが終了していることを確認してください。(6ページ参照)

注意

以下の操作を行うとIBM グローバル・ネットワーク・サービスにインターネット経由で自動的に接続されます。接続されると料金がかかりますのでご注意ください。なおこのサービスの登録時にクレジット・カードの番号が必要となります。

接続の準備をする

- 1 Windows 95 デスクトップで「スタート」をクリックします。
- 2 ポインターを「プログラム」に移動します。

- 3 「IBM インターネット」アイコンをクリックします。

IBMグローバル・ネットワークに初めて接続する場合、次の画面が表示されます。

はじめての接続ではない場合、19ページの『IBM グローバル・ネットワークに接続する』へ進んでください。



- 4 画面を読んで、必要なものがそろっていることを確認して、「次へ」をクリックします。

必要なら、すべてが OK になるまで、画面上の指示に従います。その後、「次へ」をクリックします。

次のウィンドウが表示されます。



もしあなたが個人用のインターネット・アカウントを持っている場合は、
16ページの『個人用インターネット・アカウントを持っている場合』に進んでください。

もしあなたが法人用のインターネット・アカウントを持っている場合は、
17ページの『法人用のインターネット・アカウントを持っている場合』に進んでください。

もし個人用または法人用のどちらのアカウントもない場合は、次のステップに進んでください。

5 「いいえ、これから個人用のアカウントを登録します。」を選び、円をクリックしてマークをつけます。その後、「次へ」をクリックします。

6 次の“ダイヤラーのセットアップ”ウィンドウが表示されたら内容に従います。必要な操作を行い「次へ」をクリックします。次のウィンドウが表示されます。



7 上の例を参考にして、すべての空欄を埋めていきます。その後、「次へ」をクリックします。

8 次に表示されるウィンドウでは、あなたがセットアップしたモデムがハイライト表示されていることを確認してください。

インターネットに接続する

- 9 「次へ」をクリックします。次のウィンドウが表示されます。



- a) 「接続先の電話番号を選択/変更・・・」の欄の「変更」をクリックします。国、県や州、都市、リダイヤル回数などを選択します。

その後、「OK」をクリックします。

- b) 「接続先のバックアップの電話番号を選択/変更・・・」の欄の「変更」をクリックします。国、県や州、都市、リダイヤルなどを選択します。

その後、「OK」をクリックします。

"ダイヤラーのセットアップ"ウィンドウが表示されます。

- 10 「次へ」をクリックします。

"オンライン登録"ウィンドウが表示されます。

- 11 モデムが初期化され、ダイヤルがスタートします。ダイヤルのトーン音や電話がつながる音が聞こえます。数秒後、画面に"ログイン中..."と表示されます。

- 14 IBM ThinkPad 770 使ってみよう ThinkPad(Windows 95)

その後、数画面が表示され、質問などに答えて行きます。

- 12 やがて次のウィンドウが表示されます。



- 13 ▾をクリックして国名 (JP-Japan) を選択し、「次へ」をクリックします。

- 14 登録上の注意事項などが表示されるので、画面の内容を確認し、必要に応じて入力します。

- 15 やがて表示されるウィンドウでユーザーIDを第3希望まで入力し、「次へ」をクリックします。

"サービス規約"ウィンドウが表示されます。

- 16 規約の内容をよく読みます。

注: ウィンドウをスクロールするためには、マウス・ポインターを右下隅の ▾ に移動し、クリックします。

17 サービス規約に同意する場合は、画面の最後の部分にある「はい、サービス規約に同意します。」をクリックし、「次へ」をクリックします。

クレジットカード情報を入力するウィンドウが表示されます。

18 すべての空欄を埋め、「次へ」をクリックします。

お客様の登録情報のウィンドウが表示されます。

19 表示されている情報が正しければ「実行」をクリックします。

正しくない場合は、「戻る」をクリックして、ステップ18からやり直してください。

「実行」を押すと、しばらくして“IBM ネットパスポートへようこそ!” ウィンドウが2分以内に表示されます。

重要

あなたのユーザー ID やパスワードなどの登録情報をすべてメモし、安全な場所に保管しておいてください。

20 ウィンドウ下部の「終了」をクリックします。次のウィンドウが表示されます。



- 21** 必要な設定を行い、「OK」をクリックします。次のウィンドウが表示されます。



- 22** インターネットにいますぐに接続したい場合は、「はい、...」がマークされていることを確認し、「完了」をクリックします。19ページの『IBM グローバル・ネットワークに接続する』へ進みます。

インターネットにすぐに接続しない場合は、「いいえ、...」がマークされていることを確認し、「完了」をクリックします。「閉じる」をクリックします。ここで作業を終了したい場合は、37ページの『Windows 95 を終了する』を参照して必ずシステムをシャットダウンしてください。

個人用インターネット・アカウントを持っている場合

- 1** 個人用インターネット・アカウントを持っている場合を示す選択肢を選び、円をクリックしてマークをつけます。
- 2** 「次へ」をクリックします。次のウィンドウが表示されません。



- 3** アカウントとユーザーIDの両方を埋め、「次へ」をクリックします。
- 4** 表示されたウィンドウで、あなたがセットアップしたモデムがハイライト表示されていることを確認します。その後、「次へ」をクリックします。

次のウィンドウが表示されます。



- a) 「接続先の電話番号を選択/変更・・・」の欄の「変更」をクリックします。国、県や州、都市、リダイヤル回数などを選択します。その後、「OK」をクリックします。
- b) 「接続先のバックアップの電話番号を選択/変更・・・」の欄の「変更」をクリックします。国、県や州、都市、リダイヤルの回数などを選択します。その後、「OK」をクリックします。

5 完了をクリックします。

19ページの『IBM グローバル・ネットワークに接続する』に進んでください。

法人用のインターネット・アカウントを持っている場合

- 1 法人用のインターネット・アカウントを持っている場合を示す選択肢を選び、円をクリックしてマークをつけます。
- 2 「次へ」をクリックします。次のウィンドウが表示されます。



アカウントとユーザーIDの両方を埋め、「次へ」をクリックします。

3 次に表示されたウィンドウでは、

インターネットに接続したい場合は、「インターネット」をクリックしてマークを付け、その後「次へ」をクリックして次のステップに進みます。

「自社イントラネット」または「自社イントラネットおよびインターネット」に接続したい場合は、あなたの会社のIT部門(情報技術)の担当者に連絡してください。

インターネットに接続する

- 4** 表示されたウィンドウで、あなたがセットアップしたモデムがハイライト表示されていることを確認します。その後、「次へ」をクリックします。

次のウィンドウが表示されます。



- 5** 「接続先の電話番号を選択/変更・・・」の欄の「変更」をクリックします。国、県や州、都市、リダイヤル回数などを選択します。

その後、「**OK**」をクリックします。

- 6** 「接続先のバックアップの電話番号を選択/変更・・・」の欄の「変更」をクリックします。国、県や州、都市、リダイヤルの回数などを選択します。

その後、「**OK**」をクリックします。

- 7** 完了をクリックします。

19ページの『IBM グローバル・ネットワークに接続する』に進んでください。

IBM グローバル・ネットワークに接続する

IBM グローバル・ネットワークに接続するには、次の手順に従います。

- 1 次のウィンドウで、ログイン名とパスワードを入力します。



- 2 「接続」をクリックします。モデムが初期化され、ダイヤルがスタートします。

インターネットに正しく接続され、これが初めての接続だった場合、しばらくすると次のウィンドウが表示されます。



「OK」をクリックし、ステップ 3 (20ページ) に進みます。

インターネットに正しく接続され、これが初めての接続ではない場合、ステップ 3 (20ページ) に進みます。

インターネットに正しく接続されなかった場合、「キャンセル」をクリックしていったん終了し、しばらくしてから再試行してください。

インターネットに接続する

3 次のウィンドウが表示されます。



「インターネット」をクリックします。

4 次の「インターネット サイト」ウィンドウでは、「日本IBM ホームページ」をダブル・クリックします。

日本IBM のホームページが表示されます。



注意

日本IBMホームページは適宜更新されるため、実際に画面上に表示されているものと上記のウィンドウ例とは異なっていることがあります。

おめでとうございます! 以上でインターネットへの接続は成功しました。

インターネットへの接続を終了するには、次の手順に従ってください。

- 1 ウィンドウ右上隅のXをクリックして、“日本IBM ホームページ”と“インターネット サイト”を終了します。
- 2 次のウィンドウ上部のメニュー・バーにある「ネットワーク」をクリックします。




- 3 プルダウン・メニューから「切断」をクリックします。
- 4 「はい」をクリックします。
- 5 “IBMグローバル・ネットワーク・ダイアラー”ウィンドウの右上隅のXをクリックして終了します。

37ページの『Windows 95 を終了する』を参照してシステムをシャットダウンしてください。


外付けモニターを接続する


ThinkPad には外付けモニター・コネクタが付いており、CRT モニターやオーバー・ヘッド・プロジェクターなどの外付けモニターを取り付けることができます。


外付けモニターを接続するには、次の手順に従ってください。

- 1** ThinkPad と外付けモニターの電源がオフになっていることを確認してください。(1参照)
- 2** 外付けモニターの信号ケーブルを ThinkPad 背面の外付けモニター・コネクタ () に接続します。
- 3** 先に外付けモニターの電源をオンにし、次に ThinkPad の電源をオンにします。Windows 95 デスクトップが外付けモニターにのみ表示されます。
- 4** 「マイ コンピュータ」をダブル・クリックします。
- 5** 「コントロール パネル」をダブル・クリックします。
- 6** 「ThinkPad 機能設定」をダブル・クリックします。次のウィンドウが外付けモニターに表示されます。



Windows 画面を外付けモニターと ThinkPad の液晶ディスプレイの両方に表示させる場合は、ツール・バーの  をクリックします。(画面の表示が数秒後に変わります。)

ThinkPad の液晶ディスプレイにのみ表示する場合は、 をクリックします。

外付けモニターにのみ表示する場合 (モニターのケーブルが接続された直後はこの設定になっています)は、ツール・バーの  をクリックします。

1 37ページの『Windows 95 を終了する』をご覧ください。

以上で外付けモニターの接続は完了しました。

外付けモニターを取り外すには、次の手順に従います。

- 1** 画面が外付けモニターにのみ表示されていることを確認します。
- 2** Windows 95 デスクトップ上のすべてのウィンドウを閉じます。
- 3** ThinkPad と外付けモニター両方の電源をオフにします。
(²参照)
- 4** ThinkPad からモニター・ケーブルを取り外します。

2 37ページの『Windows 95 を終了する』をご覧ください。

ファイルを赤外線通信で別の **ThinkPad** に送る

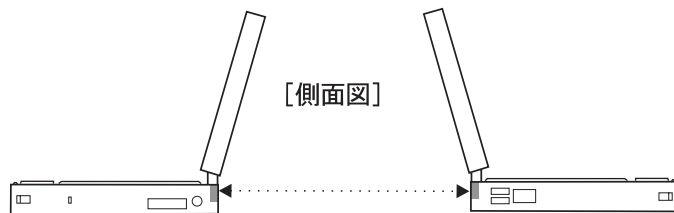
ファイルを赤外線通信で別の **ThinkPad** に送る

ThinkPad には2つ（前面と背面）の赤外線ポートがあり、他の ThinkPad と通信ができます。

2 台の **ThinkPad** を用意する

ここでは、ThinkPad 同士で赤外線ポート経由のファイルの送信を行ってみます。まず2台の ThinkPad をご用意ください。

両方の ThinkPad の赤外線ポートが向かい合うように、ThinkPad を配置してください。




2 台の ThinkPad の間には何も障害物を置かないようにしてください。

受信側の **ThinkPad** を準備する

- 1 まず、ファイルを受信する側の ThinkPad の電源をオンにします。Windows 95 のデスクトップが画面に表示されます。

- 2 「マイ コンピュータ」、「コントロール パネル」、「**ThinkPad 機能設定**」の順にダブル・クリックします。次のウィンドウが表示されます。



- 3  をクリックします。「赤外線」ウィンドウが表示されます。次のように項目が選択されていることを確認します。

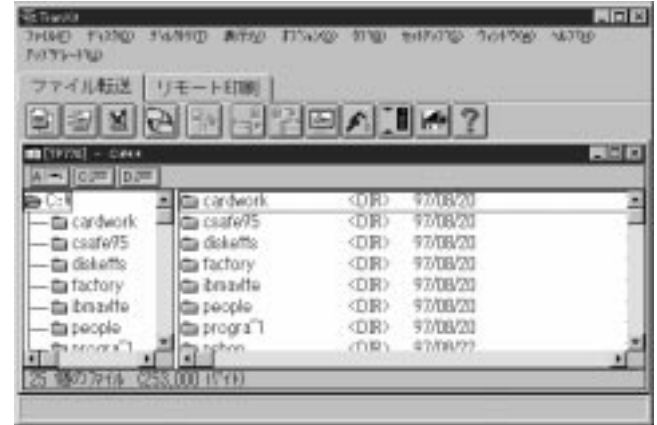


- 4 「設定」をクリックします。

- 5 すべてのウィンドウを閉じます。
- 6 設定を変更した場合は、受信側の ThinkPad を再始動してください。

TranXit をセットアップする

- 1 ファイルを受信する側の ThinkPad の電源がオフなら、オンにします。
- 2 「スタート」をクリックします。
- 3 ポインターを「プログラム」に移動し、次に「TranXit」に移動します。
- 4 「TranXit」をクリックします。数秒後に、次のウィンドウが表示されます。



- 5 「セットアップ」に続いて、「コンピュータ名」をクリックします。「コンピュータ名」ウィンドウが表示されます。
- 6 Backspace キーを押して、TP2とタイプします。その後、「OK」をクリックします。(TP2は名前の一例です。名前は自由に設定できます。)

ファイルを赤外線通信で別の ThinkPad に送る

- 7 「セットアップ」を再度クリックし、「接続状態」をクリックします。次のウィンドウが表示されます。




- 8 「OK」をクリックします。

以上で受信側の ThinkPad の準備は完了です。

送信側の ThinkPad を準備する

- 1 送信側の ThinkPad の電源をオンにします。Windows 95 のデスクトップが画面に表示されます。

- 2 「マイ コンピュータ」、「コントロール パネル」、「ThinkPad 機能設定」の順にダブル・クリックします。「ThinkPad 機能設定」ウィンドウが表示されます。

- 3  をクリックします。「赤外線」ウィンドウが表示されず。次のように項目が選択されていることを確認します。



- 4 「設定」をクリックします。
- 5 すべてのウィンドウを閉じます。
- 6 設定を変更した場合は、送信側の ThinkPad を再始動してください。

TranXit をセットアップする

- 1 送信側の ThinkPad の電源がオフの場合は、オンにします。
- 2 「スタート」をクリックします。
- 3 ポインターを「プログラム」に移動し、次に「TranXit」に移動します。

- 4 「TranXit」をクリックします。「TranXit」ウィンドウが数秒後に表示されます。
- 5 「セットアップ」に続いて、「コンピュータ名」をクリックします。「コンピュータ名」ウィンドウが表示されます。
- 6 Backspace キーを押して、TP1とタイプします。その後、「OK」をクリックします。(受信側用に設定した名前とは異なる名前を設定します。)
- 7 「セットアップ」を再度クリックし、「接続状態」をクリックします。接続が完了すると、次のウィンドウが表示されます。



接続を確認したら、「OK」をクリックします。

ファイルを赤外線通信で別の ThinkPad に送る

ファイルを送信する

接続が完了したら、次のようにしてファイルを送信します。



- 1 tp1 (右側のウィンドウ)のC:¥をクリックします。
- 2 ▼ をクリックして、送りたいファイルを見つけます。
- 3 送りたいファイル名(たとえば図の矢印、okuru.txt)をクリックしてドラッグし、tp2(左側のウィンドウ)の C. ≡ の上で離します(ドロップ)。マウス操作の確認のためのウィンドウが表示されます。

4 「はい」をクリックします。受信側(tp2)の ThinkPad の Cドライブに、「サンプル」フォルダーとテスト・ファイルが受信されます。

5 “TranXit”ウィンドウを閉じます。

おめでとうございます! 以上で赤外線通信は完了です。

37ページの『Windows 95 を終了する』を参照してシステムをシャットダウンしてください。

Intel 社の VideoPhone を使用する

注意

ここで述べる Intel 社の VideoPhone³ (以降、VideoPhone と表記) は、内蔵モデム付きの ThinkPad 770 でのみ使用できます。

もしあなたの ThinkPad が内蔵モデム付きなら、VideoPhone プログラムが初期導入されています。このソフトウェアによって、あなたの話し相手の映像を見ることができます。

注: 初期導入済みの VideoPhone は受信専用ですが、送受信用のパッケージが市販されています。(VideoPhone用のブローシャーをご覧ください)

ビデオ・カメラが装着されていない場合、または送受信用のパッケージをインストールしていない場合、VideoPhone は使用できませんが自分の映像を相手に送信することはできません。

ビデオ・コールの準備

ビデオ・コールを行う前に、自分の ThinkPad の音と映像の質を最良の状態に設定しておかなければなりません。ビデオ・コー

ルは、2 ステップによってなされます。まず、RingCentral プログラムを使って呼び出します。相手が応答したら、通常の電話と同じように会話ができます。このとき、ThinkPad は電話機器として働きます。次に、ビデオをスタートさせて相手を見ることができるようになります。

ビデオ・コールを行う前に、次のことを行います。

バックグラウンド・ノイズを取り除く。

音量を調節する。

スクリーン・セーバーをオフにするか、開始までの時間を長くする。(Windows 95 の ヘルプを参照)

モデムが正しく ThinkPad に取付けられており、電話線の接続が確実になされていることを確認する。

着信待(call waiting)を無効にしておく。(電話器の説明書を参照)

他のアプリケーションを終わらせる。

送受信アップグレード導入済みの場合のみ: ライトを自分の前に置き、まぶしくない程度の明るさにします。

送受信アップグレード導入済みの場合のみ: 服装は単色系のものを使用する。しま柄やグレー色は避ける。

3 VideoPhoneは、Intel ProShare technologyを採用しています。

ビデオ・コール

ビデオ・コールは直接に電話回線を利用するか、インターネットを通して行うことができます。ビデオ・コールの音と映像の質は、直接電話回線を利用した方が良質です。このマニュアルでは、電話回線を利用する方法で説明します。

ダイヤルする前に、モデムの設定が完了しているか確認してください。(6ページの『モデムをセットアップする』を参照)

次の方法で呼び出します。

- 1 「スタート」をクリックします。
- 2 ポインターを「プログラム」に移動します。
- 3 ポインターを「RingCentral」に移動します。

4 RingCentralの起動 をクリックします。“RingCentral”ウィンドウが表示されます。

5 キーボードでタイプするかウィンドウで番号をクリックすることによって、相手の番号を入力します。次に **ダイヤル** をクリックします。



プログラムはダイヤルを開始します。通常スピーカー・ホンに向かって話すようにして、相手と会話できます。

6 あなたまたは相手がビデオ ボタンを押せば、VideoPhoneが開始されます。相手が送受信の機能を備えている場合は、ビデオ ボタンを押してもらってください。

- 7 応答 をクリックします。“RingCentral” ウィンドウの隣に“Intel Video Phone” ウィンドウが表示されます。



“Intel Video Phone” ウィンドウの上部に相手の映像を見ることができます。

ビデオ・コールの応答

ビデオ交信は、コンピューターからの呼びかけに対して音声で応答することにより、開始されます。電話の呼出しによって開始されるものではありません。

- 1 「スタート」をクリックします。
- 2 ポインターを「プログラム」に移動します。
- 3 ポインターを「RingCentral」に移動します。
- 4 電話呼出しを受けたとき、**RingCentral** の起動 をクリックします。“RingCentral” ウィンドウが表示されます。



- 5 応答 をクリックします。

通常スピーカー・ホンに向かって話すようにして、相手と会話できます。

VideoPhoneを使用する

ステップ 6 (30ページ) でビデオ接続を行い、後のステップを続けます。

呼出の終了

1 矢印のボタンを押します。



2 電話を終える場合は、矢印のボタンをクリックします。



3 Yesをクリックします。

4 切るボタンをクリックします。



5 右上隅の X をクリックして、“Intel Video Phone” を閉じ、“RingCentral” ウィンドウを閉じます。

おめでとうございます! これでビデオ・コールは終了しました。

37ページの『Windows 95 を終了する』を参照してシステムをシャットダウンしてください。

VideoCap32 の基本的な使い方

VideoCap32 は次の機能を持つアプリケーションです。

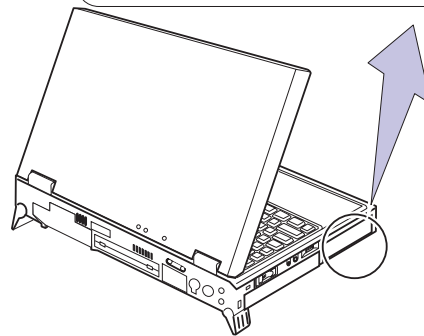
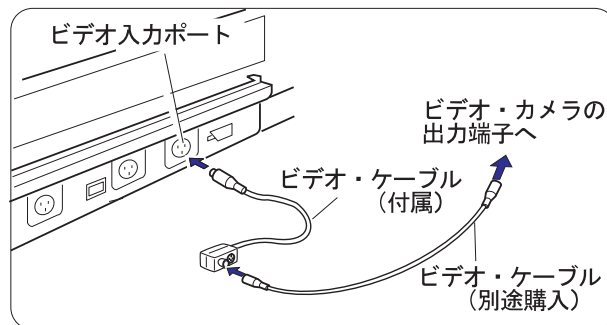
- 動画ファイルの取り込み
- 静止画像の取り込み

ビデオカメラの接続

アプリケーションを使用する前にビデオカメラと ThinkPad が正しく接続されていることを確認してください。

注: ビデオカメラのオーディオ出力は、ThinkPad のマイクロホン/ライン入力 ジャックに接続します。

ThinkPad の電源をオフにし、ビデオ入出力ケーブル (ThinkPad770 用のビデオ変換コネクター) を ThinkPad 側のビデオ入力ポートに接続します。ビデオが正しく接続されている場合は、VideoCap32 を起動すると自動的にビデオ映像がアプリケーションのウィンドウに映し出されます。



動画を取り込む (Video Capture)

1. 取り込みたい映像を保存しておくファイル名を指定します。
[File] [Save Captured Video As....] ファイル名を指定します。
2. [Capture] [Video] Capture Video Sequence のウィンドウが開いたら「OK」を選択します。
もう一度「OK」を選択すると動画の取り込みがスタートします。

画像の取り込みを中止したい場合は画面上でトラックポイントまたはマウスボタンを右クリックしてください。

3. 取り込んだ動画の再生はステップ1で指定したファイルのアイコンをダブルクリックするとスタートします。
(Windows95 のエクスプローラ等で確認してください) この他にも Windows95 のアクセサリのメディアプレーヤーでも再生できます。

注: ファイル名を指定せずに Capture するとデフォルトで CAPTURE.AVI というファイルに保存されます。前回作成したファイルがある場合、ファイル名を指定せずに Capture すると上書きされます。

静止画像を一枚だけ取り込む (Single Frame Capture)

写真のように、静止した画像を一枚だけ取り込むには、次のようにします。

1. ビデオで取り込みたい映像を VideoCap32 のウィンドウに映し出します。
2. [Capture] [Single Frame] を選択すると静止画像としてウィンドウに表示されます。
3. 取り込みたい映像が確認できたらファイルに保存します。
[File] [Save Single Frame As....] ファイル名を指定します。

画像はビットマップ・ファイルとして保存されます。このときファイルの拡張子は付きません。ファイル名の後に「.BMP」とタイプしてください。

静止画像を一枚ずつ取り込んで連続して表示させる

紙芝居のように静止画像を順番にならべて再生していきます。

1. 画像を保存しておくファイル名を指定します。[File] [Set Capture File....] ファイル名を指定します。
2. [Options] [Overlay] ビデオが再生モードになっていることを確認してください。
3. [Capture] [Frame] を選択すると Capture Frames のメッセージが表示されます。ここで「OK」を選択すると、現在 VideoCap32 のウィンドウに表示されている映像が一枚目のフレームとして保存されます。
4. ビデオカメラを動かして、次の映像をウィンドウに表示させ「OK」を選択します。
5. ステップ4の操作を繰り返すすべての映像の Capture が終了したら「Close」を選択します。
6. 取り込んだ動画の再生はステップ1で指定したファイルをダブルクリックするとスタートします。(Windows95 のエクスプローラ等で確認してください) この他にも Windows95 のアクセサリのメディアプレーヤーでも再生できます。

注:

ビデオ入出力ポートのないモデルでこのソフトウェアを利用するには、あらかじめオプションの DVD 拡張ビデオ・アダプターを取り付けておく必要があります。

また、導入済みアプリケーションCDより VideoCap32 を導入してください。

VideoPhoneを使用する

ThinkPad 770 付属の VieoCap32 は英語版です。

(一部日本語)

VideoCap32 をご使用になる場合はあらかじめビデオ入力ドライバーのVideoCapture III for Windows95 がインストールされている必要があります。

動画を取り込む場合は画像のサイズに注意してください。画像サイズが大きくなるほどコマ落ちの可能性が高くなります。映像を取り込む前に画面の大きさを指定しておいてください。

[Options] [Video Format] フレームの大きさを指定します。

最大 640×480

最小 80×60

その他にも画像を圧縮する「Compression」という機能もあります。詳しくは VideoCap32 ヘルプをご覧ください。(英語)

Windows 95 を終了する

ThinkPad の操作を終了して、電源をオフにしたい場合は次の手順に従ってください。

1 画面の左下隅のスタートをクリックします。

次のメニューが表示されます。



2 Windows の終了をクリックします。

確認メッセージが表示されます。

3 「はい」をクリックします。

ThinkPad の電源をオフにします。

本書において、日本では発表されていない IBM 製品、(機械およびプログラム)、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBM ライセンス・プログラムまたは他の IBM 製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼動の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM および他社は、本書で説明する主題に関する特許権 (特許出願を含む) 商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用权等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用权等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106 東京都港区六本木 3 丁目 2-31
AP 事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

商標

本書において使用されている次の用語は、米国およびその他の国におけるIBM 社の商標です。

IBM
ThinkPad
TrackPoint

Microsoft、Windows、Windows NT、および Windows 95 は、Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

Intel および ProShare は、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。

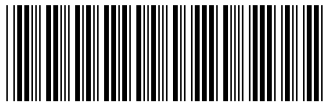
Ring Zero System および RingCentral は、Ring Zero System Inc. の商標です。

CardWorks および CardWizard は、SystemSoft Corporation の商標です。

IBM

部品番号: 05K7578

Printed in Japan



5K7578